

「食の都庄内」からあたりまえの美味しさを届ける
～組合員の経営確立と消費者との共生～

農事組合法人庄内協同ファーム 代表理事 小野寺紀允（鶴岡市）

1 受賞者の概要

庄内協同ファームは鶴岡市を活動拠点とする平成元年に設立した法人（組合員19戸、39人）である（図1）。「食は、農とひとつづき」という理念の下に、組合員が環境に配慮して生産した米やえだまめの販売、もち加工などを行っている。設立当初から生協との産直を行い、顔の見える消費者交流に取り組んでいる。



図1 庄内協同ファームの若手組合員

2 特色ある活動

(1) 有機栽培を中心とした環境保全型農業の取組み

平成12年に有機JAS規格が制定されると同時に認証を取得し、安心・安全な農産物生産を行っている。組合員は独自配合のぼかし肥料を用いた土づくりやアイガモを用いた除草、有機質肥料の共同購入等に取り組み、水稻有機栽培の技術を蓄積している。また、構成員のうち4人は県の「やまがた有機農業の匠」に認定されており、地域で有機農業の普及拡大に貢献している。

(2) 連携組織設立による環境保全型農業の地域への波及と関係人口の創出

平成15年にJA庄内たがわに呼び掛けて「庄内産直ネットワーク」を設立し、法人の枠を超えて環境保全型農業の取組みを推進している。これにより、地域における有機栽培・特別栽培米の生産が拡大するとともに、消費者交流の取組みも広域化し、田植えや稲刈りのイベント等を通じた首都圏の関係人口創出に大きく寄与している（図2）。



図2 消費者交流の様子

(3) 40年以上続くもち加工と新商品開発の取組み

組合員が生産した有機栽培・特別栽培の「でわのもち」を用いて、十数種類の切りもち、丸もち等を製造している。杵つき、無加水で作ったもちはコシが強く、消費者に好評である。

また、令和4年に商品化した玄米100%のニョッキ「によっこ」は、その独創性等が評価され、「令和5年度山形のうまいものファインフードコンテスト」で県知事賞を受賞している。

3 今後の発展方向

庄内という魅力あふれる産地を次世代に残すため、令和7年7月に今後の運営指針となる「2030産地vision」を策定した。これに基づき、20～30歳代の若手組合員の育成やもち加工に次ぐ新規事業の創出、創設メンバーのリタイアに伴う農地の確保・拡大等に取り組んでいく（図3）。

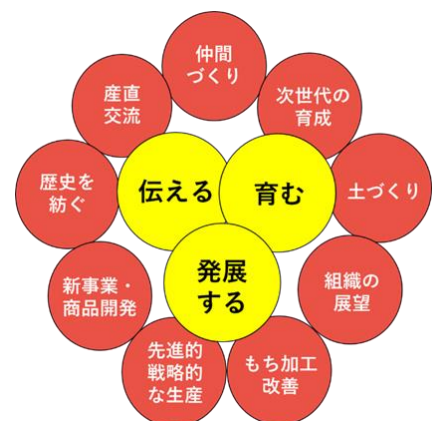


図3 庄内協同ファームが目指す
「2030産地vision」